

教区納骨者および死者

祈念ミサ(大阪)

11月3日(月・祝)11時

司式: 大司教 前田万葉 枢機卿

大阪高松カテドラル 聖マリア大聖堂

合同追悼ミサ(四国)

11月3日(月・祝)10時

司式: 松浦信行神父

カトリック桜町教会納骨堂

(ミサ後) 姥ヶ池墓地墓参

2025 聖年行事 Jubilee of Youth 青年の祝祭

7月28日～8月3日、ローマとバチカンで開催された『Jubilee of Youth (青年の祝祭)』に、日本公式巡礼団として青年41名と司教・司祭・宣教者を含む同伴者9名が参加した。世界からは約100万人、大阪高松教区からは7名(管区全体では12名)が加わった。



日本の参加者たち
バチカンのサンピエトロ広場で

巡礼団は退役消防士所有のキャンプ場を宿舎とし、毎日ミサや四大バジリカの訪問、班ごとの活動を行った。最後の三日間はゆるしの秘跡や分かち合いの後、トル・ヴェルガータの野外会場へ向かい、野宿をしながら教皇ミサに与った。

帰国後、有志による「ふり返し」をする中で、いくつかのことが浮かび上がった。

① 参加前の思い

海外での特別な体験や出会いを期待していた。日本人同士の出会いも含まれていたが、何よりも根源的な「神様との出会い」を強く求めていた。

② 実際に参加して

初めての出会いの緊張感、暑さや混雑、宿舎の不自由さ、悪天候など、最初は少し困難さを感じた。その中で、自分の信仰や祈り

感じたこと

初めての出会いの緊張感、暑さや混雑、宿舎の不自由さ、悪天候など、最初は少し困難さを感じた。その中で、自分の信仰や祈り

への理解、極限状況に置かれたときの自分の姿勢やあり方を見つめ直す機会ともなった。気づきを得る一方、ある意味で打ちのめされるような思いもあり、「神様に簡単に」は出

えない」と感じる瞬間もあった。

③ 困難を超えて

得られた体験

しかし、これらの困難を乗り越えたからこそ味わえたものがあつた。祈りの一体感、パバ様との出会い、仲間との出会いや交わり、そして世界中の若者と共に祈る信仰体験が大きな意味を帯びた。表現しきれない部分も含めて、心に深く刻まれた体験を言葉にし、互いに共感することができた。

日本では普段あまり意識できないような「同じ信仰を生きる仲間」との出会いや触れ合いに励まされ、喜びを感じた。その中に神様がおられることも感じ、一人ではないと思うことができた。

それぞれの次なる一歩に繋がるものを感じ、希望の巡礼を歩み続ける。

(文 青少年司牧委員会 高山徹神父)

共同司教座聖堂桜町教会で 初 開催

YouTube 配信でより多くの人が参加できるミサを

9月23日、大阪高松大司教区共同司教座聖堂桜町教会に集まった約100人の参加者が酒井俊弘補佐司教の主司式により「病者・障がい者とともに歩むミサ」を捧げた。ミサ後には交流会が行われ、障がい者と接することについて分かちあつた。ミサはYouTubeで同時配信され、交流会はZoomを利用して、遠隔地からも参加できるよう配慮した。

病者・障がい者とともに歩むミサ



べられた。

また、聖年の免償を得られる行いのうち「信者は、困窮や困難のうちに兄弟、病者、受刑者、孤独な高齢者、障がい者などをふさわしい頻度で訪問すること」は、健康な人が病者や障がい者を訪問するだけでなく、病者や障がい者自身も他の障がい者・病者を訪問して免償を得ることができるという勧めでもあることを説明された。

最後に、健康な人が病者や障がい者を助けるだけでなく、病者や障がい者向き合っている人が別の病者や障がい者のために祈つ

たりできる範囲で助けたりするという愛のわざが実現するとき、福音朗読(ヨハネ9章1-3)で読まれたイエス様の言葉「神のわざがこの人に現れる」が現実のものとなる。私たち一人ひとりが一つの体の部分として、他の部分を助け、支え、そして共に歩んでいくことができるようにとの祈りで説教を締めくくられた。

交流会では、3人ずつ約20のグループに分かれ、「白杖を持った方」「耳が聞こえないように見える方」への声かけについて分かちあつた。また、聴覚障がい者、車イス利用者から「手話ができなくても表情や口話、身振り手振りでも交流できる」とことや「なかなか教会に來れないが立派なスロープができて良かった、でもエレベーターが狭い」というような現実の困りごとを聴くことができた。

最後に、耳がきこえないかどうかの尋ね方やス

(文 桜町教会信徒 長谷川 聖)

長谷川 聖



11
2025

発行所
大阪府中央区玉造2-24-22
カトリック大阪高松大司教区
広報委員会
郵便番号 540-0004
TEL (06) 6941-9700(代表)
TEL (06) 6946-3223(直通)
FAX (06) 6946-3224(直通)
E-mail: kyokuh@ostk.catholic.jp
編集 広報委員会
発行人 前田万葉

本紙
「点訳版」「音訳」
あります。〈無料〉
※ご希望の場合は
下記まで申込み
「点訳版(点字本)」
教区報 ☎ 06-6946-3223(直通)
☎ 06-6946-3224(直通)
「音訳(テープ・デジ)」
山口さん ☎ 0798-22-1649

☆ シノドス学習会
☆ シノドスの道のり
☆ 宝塚教会 韓国釜山巡礼
☆ ガラシア健康だより
☆ カトリック輪島教会(名古屋教区 献堂式)
☆ シンポジウム 管区部落差別人権活動センター
☆ 丸亀教会 聖母被昇天ミサ
☆ シンポジウム = kyokuh@ostk.catholic.jp
『教区報』原稿
資料等の締切は
前々月末です。

入居者、 スタッフ 募集

株式会社 ガラシア WINGS
サービス付き高齢者住宅
ドムス ガラシア

入居者を募集しております。
また、看護師、介護職員を募集しております。
皆様のご協力をお願い申し上げます。

☎ 06-4960-8020
✉ info@gratia-wings.jp
担当 奥本、濱口

2020年9月、尼崎市園田教会の隣に開業。信徒、修道士、司祭のケアを提供。

さらに歩み続ける シノドスの道へ

世界代表司教会議(シノドス)第16回通常総会は、「ともに歩む教会のためー交わり、参加、そして宣教」をテーマに、2021年から24年にかけて、世界中で行われました。2024年開催の第2会期の終わりに承認された「最終文書」では、2021年から全世界の教会で、話し合い、学び合い、分かち合い、祈り合ってきたシノドスの道を、続けていくことが確認されました。

教皇庁シノドス事務局は、このシノドスの道の歩みは2028年10月にバチカンで「教会総会」が開催されることで頂点に達するとされ、それまでの実施プロセスについての概要「シノドス 実施ステージの旅程 2025-2028」を発表しています。その冒頭で「実施ステージでは、教会の生活をよりシノドス的なものとする、新たな実践や構造を検討することを目指します」と示されています。

これを受けて、日本のシノドス特別チーム(担当 菊地功枢機卿)は、今後日本の教会においても、それぞれの教区、また小教区、修道院などの共同体で、「ともに歩む」教会を目指して取り組みを継続していくものとして、それまでの期間を次のように取り組むロードマップ(行程表)を発表しました。

2025年6月からの1年間 最終文書についての理解を深める期間

2026年6月からの1年間 各教区、各分野で具体的に取り組みをする期間

2027年6月からの1年間 各レベルでの評価を行う期間

併せて次のような考えが示されました。『「最終文書」に記されていることについて具体的にどのような選択をするのかは、それぞれの共同体が置かれている社会の現状や生きているコンテキスト(状況や背景)によって異なっています。しかしわたしたちの教会がどこを向いて歩んでいるのか、どのような困難を抱えているのか、そういうことを共有しながら、ともに歩み、ともに祈り、ともに識別するすべを身につけることは重要であると思います。そのためには、まず『最終文書』の理解を深める勉強会から始めていきます」。

よって、まずはこの「最終文書」に触れることが、これからのシノドスの道の歩みへの第1歩となります。この「最終文書」の邦訳は、『シノドス流の教会 交わり、参加、宣教<シノドス最終文書>』と題して書籍化されています。ただし、この本は全体で200ページ近くにもなりますので、まずは最終文書本文の前に掲載されている「教皇フランシスコによる付記」(2024年11月24日付)をしっかり読み込んでいただくことをお勧めします。また、「最終文書」の勉強会等の企画には、可能な限り参加を検討いただきますようお願いいたします。

(文 新福音化委員会 シノドス特別チーム)

*「最終文書」はすでに教区本部事務局から各小教区に1部送り届けられている。以下のQRコードから全文が参照できる。

世界代表司教会議 第16回 通常総会

The Second Session of

the XVI Ordinary General Assembly of the Synod of Bishops

最終文書



だれをも取りこぼさず、すべての人を巻き込もうとした革新的な2021-2024シノドス。教皇フランシスコとシノドス第16回通常総会の連名により出されたその「最終文書」。

- ▼ ここからQRコードを読み取ってください。
- ▼ シノドス最終文書全文公開

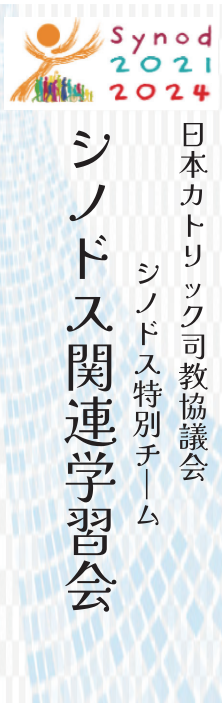


シノドスの精神を分かち合う学びの集い

学習会では、シノドス(世界代表司教会議)の総書記を務めるジャン・クロード・オロリツシュ枢機卿(ルクセンブルク教区)が基調講演を行った。枢機卿は、フランシスコ教皇の言葉を引用しながら、「シノドスは『イベント(出来事)』ではなく『プロセス(歩み)』である」と語った。何か大きな成果を挙げることよりも、「ともに歩む」ことそのものに意味がある——その言葉には、教会の本質を見つめ直す呼

びかけが込められていた。続く「霊における会話」では、参加者たちが思いを分かち合った。「良い結果が出るかどうかかわからなくても、恐れずに、今すぐに始めることが大切だ」という声もあがった。完璧を求めるより、まず一歩を踏み出す勇氣。小さな歩みの積み重ねが、教会の未来を形づくっていく。

9月4日、大阪高松教区本部事務局において、さらなる「ともに歩む」教会となるための「シノドス学習会」が行われ、15教区の司教と各教区の担当者総勢50人が集まった。



シノドスの歩みは、**2028年10月に**
バチカンで開催される「教会会議」において、
頂点に達します。

シノドス事務局長
マリオ・グレック枢機卿

シノドスの歩み

2028年に向けて

耳を傾け、出会い、対話し、
識別するプロセス





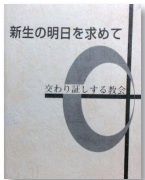
シノドス報告のスライドを視聴

□ 講座 □

シノドス流の教会を求めて

「新生の明日を求めて」を一緒に読もう

四国カトリック会館で新講座が始まった。

松浦信行神父、高山^{あきら}徹神父とともに教会の動きを分かちあう

今回のシノドスの特徴である「神の民に聞くことと司牧者たちの識別」に関連して、歩み続ける教会の中で一人ひとりの賜物を活かすよう配慮していくことが解説され、高山神父がシノドス最終文書の内容概観を「たまものの交換」という観点でまとめたスライドを視聴した。

(文桜町教会信徒 長谷川 聖^{せいじ})

だれをも取りこぼさず、すべての人を巻き込もうとした2021〜2024シノドスの最終文書『シノドス流の教会 交わり、参加、宣教』と、1995年に教区の未来を切り開く基本ビジョンとして大阪教区が発表した「新生計画」をとりまとめ1998年に大阪教区が発行した冊子『新生の明日を求めて』を交わり証しする教会』とをあわせて読み、阪神・淡路大震災後に見られた社会から教会へのチャレンジとシノドスで取り上げられた教会から社会へのチャレンジを解説し分かちあう。

毎月1回土曜日(全7回)

に四国カトリック会館で開催される予定で、初回は9月20日に行われ、8人の参加者が集まった。

聖年巡礼を終えて



投稿募集

2024年12月29日から始まった聖年「希望の巡礼者」は2025年12月28日をもって終了いたします。この期間に、個人・団体で行われた取り組み、また巡礼で生まれた交流や巡礼に出かけて印象に残ったこと、そして今後の展望などを是非お寄せください。



*字数：300字程度 写真2〜3枚
*締切：2026年1月30日(金)
送り先：カトリック大阪高松大司教区
広報委員会 宛
E-mail: kyokuho@ostk.catholic.jp
FAX: 06-6946-3224



保健医療従事者のためにサン・ピエトロ大聖堂の広場でミサが行われた

4月3〜4日、いのち・信徒・家庭省に本部を置く国際カトリック看護協会(ICN)の理事会がローマで開催された。

日本から同アジア地区長である日本カトリック看護協会会長清水と同本部国際顧問ケン・G・スレイマン神父(メリノール会)が執行役員として出席した。

会議後の5〜6日にバジリカ(使徒座聖ペトロ大聖堂、聖パウロ大聖堂、前使徒座ラテラン教会、サンタマリア・マッジョーレ教会)の巡礼を行った。

4月5日に開始された保健医療従事者のためのミサがサン・ピエトロ大聖堂と広場で開催された。大聖堂内では、2018年に列福された、ポーランド、クラクフ出身のハナ・クルザノフスカ看護師の記念ミサが行われ、制服に身を包んだポーランドカトリック看護協会会員が参列した。

6日は保健医療従事者のための広場でミサが行われ、ミサ後に教皇フランシスコがサプライズで登場され、「日曜日、皆さんに祝福を」と挨拶され、大群衆から歓声が上がった。帰天前2週間のことであった。

(文 日本カトリック看護協会 会長 清水裕子)

ローマのバジリカ巡礼

聖書週間はサクラ ファミリアへ

11/16(日) 14:00~15:30

どなたでもご自由に すべて申込不要

「口を開け、わたしが授ける〔この巻物を〕食べなさい」(エゼキエル2・8)
—「みことばを読む」ということ—

特別講話 澤田 豊成 神父(聖パウロ修道会)

11/17(月)~21(金) 10:30~12:00

みことばをあじわう ~シスターを囲んで~

- ◆17(月) Sr 北濱 純子 (大阪聖ヨゼフ宣教修道女会)
- ◆18(火) Sr 金子 君子 (サレジアン・シスターズ)
- ◆19(水) Sr エンシソ アルダナ グロリア (マリア布教修道女会)
- ◆20(木) Sr 服部 悦子 (善きサマリア人修道会)
- ◆21(金) Sr 塩崎 時子 (聖ビンセンシオ・ア・パウロの愛徳姉妹会)

主催・お問合わせ▶サクラ ファミリア TEL 06-6225-8871 f.sacra@ostk.catholic.jp



聖母被昇天祭



8月15日、聖母被昇天祭のミサが行われた。この日は夏休みの帰省やお盆の時期と重なり、多くの信徒が先祖を追悼するために集まり、荘厳にミサがささげられた。

そうめん流しパーティー

子どもの姿はやや少なかったものの、フィリピンやベトナム出身の信徒も多く参加し、国や世代を超えてともに祈りを分かち合うひとときとなった。

ミサの後には、婦人部が朝から準備していた恒例のそうめん流しが行われた。香川県名産の小豆島そうめんを3キログラム用意し、食べる勢いに流す側が追いつかないほどの賑わいだった。そうめん流し台は高山神父様の寄贈によるもので、毎年の楽しみを支える大切な存在となっている。

そうめんを満喫した後はお菓子とコーヒーを囲んで歓談のひととき。年に一度の大イベントとして、笑顔と交流に満ちた夏の日の思い出がまたひとつ加わった。

聖体奉仕者・集会祭儀司式者 認定証書授与



神に仕える喜びを胸に

香川地区活動報告

丸亀教会

7月20日、カトリック丸亀教会において、司教代理の松浦信行神父様から任命された太田修さん、竹本孝さん、柳原優代さん、吉田アキ子さんの4名が、主任司祭の高山徹神父様より、ミサ後に聖体奉仕者および集会祭儀司式者の認定証書を授与されました。

高齢化や転任などにより神父の人数が減少していく中、司祭の補助的な役割を担うことへの自覚を新たにし、奉仕の精神をもって努めていく決意が新たにされました。

信仰のたね、心に芽生えて



阪神地区活動報告

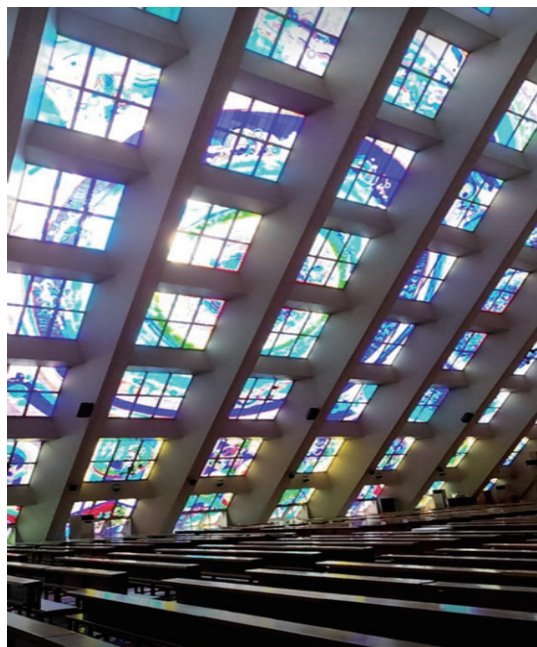
宝塚教会釜山巡礼

8月22日〜24日の3日間、カトリック宝塚教会では韓国釜山巡礼が行われた。

参加者は中高生4人、小学生1人、青年4人、保護者の計19人。今年は記念すべき聖年ということ、またその中で子どもたちが信仰の恵みを感じ、何か記憶に残る経験ができないかと朴起徳神父様から提案があり、計画された。

釜山へ到着後は「水宮場台殉教聖地」を訪問した。この場所は、19世紀初頭に信徒たちが捕えられ、処刑された場所である。ここでは全員で主の祈りを唱え、信仰を貫くことの大切さを感じる事ができた。その後我々の巡礼の旅は釜山教区の司教座聖堂である南川カ

南山教会の子どもたちと共に行った共同ミサ



南川カテドラル聖堂(釜山教区)

テドラル聖堂へ。傾斜したカーテンウォールに輝くステンドグラスの美しさは圧巻だった。皆で「希望の巡礼者」を歌い、巡礼の恵みに感謝した。今回の巡礼のハイライトは朴神父様の出身教会である「南山教会」での子どもとともにささげるミサに最後にあずかることであつた。土曜の夕方のミサであるにも関わらず、約100人の子どもが集い、生バンドの演奏に乗せて彼らの歌声が聖堂いっぱいに響き渡るミサには心から感動した。海外でのミサに初めてあずかった宝塚教会の

子どもたちも、言葉は違ってもミサによって繋がる事ができることを実感できたようだ。この記念の年に韓国・釜山を訪れる機会に恵まれ、本当に感謝でいっぱいである。

この巡礼を通して時かれた信仰の種が子どもたちの心の中で確かに芽吹き育つことを、一信徒として、また保護者としても強く願っている。そして小教区においても、侍者や朗読などの奉仕に積極的に努めてもらいたいと思う。

(文 宝塚教会信徒
マルガリタ木元千恵)



水宮場台殉教聖地

カトリック輪島教会（名古屋司教区） 献 堂 式

9月27日、カトリック輪島教会（名古屋司教区）の献堂式が行われた。

輪島教会旧聖堂は、2024年1月1日に発生した能登半島地震により全壊と判定され、解体された。今回の新聖堂は、「被災地の復興支援の象徴となるように」との思いを込めて建てられ、被災地と全国の多くの人びとの思いと祈りをつなぐ場所として献堂された。解体前の旧聖堂からは、かつての面影を残すために、十字架や聖母マリア像、ステンドグラス、オルガンなどを修復し、新聖堂を彩るものとして再び活用している。



教会外観

2階部分は「カリタスのとサポートセンター・輪島ベース」として使用され、雑魚寝で6人の宿泊が可能となっている。同センターのキャッチコピー「のとともに」を体現する拠点として、今後の活動が期待されている。これまで、七尾ベース（七尾市）から輪島市へボランティアに向かう際には約1時間15分を要していたが、輪島ベースの開設により移動時間が大幅に短縮され、スタッフやボランティアの移動による疲労も軽減される。これにより、市内での滞在時間をより多く確保できるようになり、輪島市内でのボランティア活動が一層充実していくことが期待されている。

カリタスのとサポートセンターでは、現在、七尾ベースと輪島ベースの2拠点でボランティアを受け入れている。

カリタスのとサポートセンター

〒920-0962 石川県金沢市広坂1-1-54

カトリック金沢教会内

電話：ボランティア受付 070-1220-7495

ここから読み
取ってください



【開催の趣旨】ガザのジェノサイドの現状はマスコミが具体的に報道していない。その現実を知り、人の尊厳とは何か、そして人種主義の是非を問い直す。

岡さんはパレスチナのガザ地区で続いている、ジェノサイド（大量殺戮）の現実の報告と、イスラエルのガザ侵攻が2023年10月に始まったものではなく、イスラエルによる積年の不正義の連続性の文脈で語り、その不正義に声をあげない国際社会の問題点も指摘した。

中村さんの話は、今も社会問題となっているヘイトクライムを生み出す思想としてのレイシズム（人種主義）について語った。レイシズムとは、人種には優劣があり、優れた人種が他者を支配することであり、人間が同じ尊厳を持った人間を非人間化して支配するというところでもある。ヨーロッパによる南米の植民地化、あるいは近代の日本の朝鮮・台湾で行った植民地化もこのレイシズムが根幹にある。そして現代の日本社会には、かつての植民地支配のレイシズムの発想が、法制度の中に外国人差別の構造として残っていることを指摘した。

ふたりの講師の話から私たちが社会的な不正義を前に決然として向き合うことの大切さと受けとめた。

（文部省差別人権委員会
担当司祭 長崎 壮）

ガラシア病院健康だより

フレイルを予防しよう！～身体的フレイルについて～

フレイルとは、高齢期に心身機能が衰えた状態をいい、健康な状態と介護が必要となる状態の間を指します。フレイルはいくつかの種類がありますが、今回は身体的フレイルについてご紹介します。

身体的フレイルの最も大きな原因が筋肉の衰えです。高齢期になると筋肉量の低下がみられ、40歳から80歳までの40年間で、筋力は30%低下するといわれています。そのため、適切な食事・運動によって生活習慣を整えることで、進行を遅らせることができます。高齢でも積極的に体を動かすことによって、筋力を維持・向上できることも分かっています。そのため、今回は基本的な動作に必要な筋力トレーニングをいくつかご紹介します。



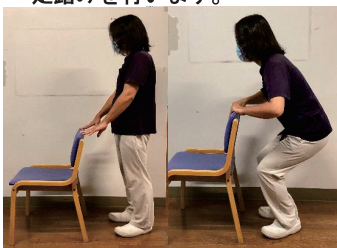
【各運動 10回2セットを目安に実施して下さい】



歩く時と同じ要領で腕振りと足踏みを行います。



膝(ひざ)を左右交互に伸ばしていきます



椅子など動かない物を持ち、脚の付け根と膝(ひざ)を軽く曲げ、お尻を下ろします。



椅子など動かないものを持ち踵(かかと)を上げます

*回数、セット数は目安です。体調に合わせて無理のない範囲で実施しましょう。適切な運動や食事によって身体的フレイルの進行を緩め、健康な状態にしましょう。



医療法人ガラシア会

ガラシア病院

生活習慣病、各種健康診断にも対応

〒562-8567

大阪府箕面市栗生間谷西6丁目14-1

TEL：072-729-2345

訃 報

Sr マリア・アグネス武美代子（愛徳カルメル修道女会）は、9月12日、腎不全のため帰天。84歳。大阪府出身。



1965年初誓願後、修道生活の大半を教育に捧げた。愛徳学園小学校では手作りの教材を使って、子どもたちの宗教教育に熱心だった。学園に勤務し、二五年近く教育に

1954年に初誓願を宣立後、賢明学院幼稚園、小学校に勤務し、二五年近く教育に

の校長も務めた。保護者への福音宣教にも熱心で、ユーモアがあり親しみやすい人柄で、多くの方に慕われた。学園退職後は、さいたま教区で学校とは別の形で、外国人の子どもの教育に励んだ。

Sr アグネス田路幸子（聖母奉獻修道会）は、9月24日、老衰のため特別養護老人ホームで帰天。98歳。兵庫県姫路市出身。



2017年老人ホームに入所して以来、スタッフや入所者に笑顔で接し、奉獻生活71年間を通じて宣教を続けていた。

カトリック大阪高松教会管区部落差別人権活動センター

周縁に追いやられた人々

9月23日、サクラファミリアにおいて、カトリック大阪高松教会管区部落差別人権活動センター主催のシンポジウムが開催され、40人が参加した。講師は長年にわたりパレスチナ問題について研究をしてこられた岡真理さん（早稲田大学大学院教授）と、レイシズムからヘイトまで研究し報道しているジャーナリストの中村一成さんのお二人。

岡さんはパレスチナのガザ地区で続いている、ジェノサイド（大量殺戮）の現実の報告と、イスラエルのガザ侵攻が2023年10月に始まったものではなく、イスラエルによる積年の不正義の連続性の文脈で語り、その不正義に声をあげない国際社会の問題点も指摘した。

中村さんの話は、今も社会問題となっているヘイトクライムを生み出す思想としてのレイシズム（人種主義）について語った。レイシズムとは、人種には優劣があり、優れた人種が他者を支配することであり、人間が同じ尊厳を持った人間を非人間化して支配するというところでもある。ヨーロッパによる南米の植民地化、あるいは近代の日本の朝鮮・台湾で行った植民地化もこのレイシズムが根幹にある。そして現代の日本社会には、かつての植民地支配のレイシズムの発想が、法制度の中に外国人差別の構造として残っていることを指摘した。

ふたりの講師の話から私たちが社会的な不正義を前に決然として向き合うことの大切さと受けとめた。

（文部省差別人権委員会
担当司祭 長崎 壮）

来、見なさい



ヨハネ 1・46

※詳細は各主催者へ直接お問い合わせください。

教区委員会主催

2025 シノドス研修会◆シノドスの理解を深め 使徒職を活性化させる

講師 菊地 功枢機卿(日本カトリック司教協議会会長・司教協議会シノドス特別チームメンバー)

日時 11/8(土)13:30～16:30 申込不要

場所 サクラ ファミリア YouTube配信あり

共催・問 使徒職養成委員会・新福音化委員会

☎06-6941-9700

✉kyousei@ostk.catholic.jp

カンボジア巡礼ツアー2026◆「カンボジア教会の日」で支援する子ども教育プロジェクトを訪問

日時 2026年2/9(月)～2/15(日)

参加費 25万円(教区信徒対象 5万円費用補助あり)

定員 12名(最少催行人数6名)先着順

申込 二次元コードから

締切り12/18(木)

問 一般社団法人 JLMM

☎0467-40-3452

✉jlmm@jada.dti.ne.jp

主催 大阪高松大司教区

サクラ ファミリア主催

聞かせてください 神さまと出会った時のこと～エマ

オへの道で～◆大阪高松教区で働く司祭・修道者ご自身の体験をさく

日時 12/2(火)18:00～19:30 12/3(水)10:30～12:00

お話 渡辺徹郎神父 (イエズス会・六甲教会)

コレーン神父の聖書講座◆「ルカ福音書における受難・復活物語・ルカからのメッセージ」全4回

日時 11/10(月)・12/8(月) 13:30～15:00

和田幹男神父◆聖書研究講座「新約聖書概論」

日時 11/12(水)10:30～12:00

和田幹男神父◆新約聖書ギリシア語(初級)

日時 11/10・24(月)17:00～18:30

祈りのよる◆灯りをかこみ、ともに祈る静かな時間を

日時 毎月17日19:00～19:30

問 サクラ ファミリア

☎06-6225-8871

✉f.sacra@ostk.catholic.jp

結 婚 準 備 講 座

夙川教会

日時 11/2(日)～11/23(日) 14:00～15:30(4回)

次回2026年2/7(土)～2/28(土)16:30～18:00

参加費 ￥5,000(2名)

問 ☎0798-22-1649

六甲教会

日時 次回2/1(日)～2/22(日) 14:00～16:00(4回)

参加費 ￥5,000(2名)

問 ☎078-851-2846

✉renraku@rokko-catholic.jp

※事前要問合せ(年2回)

黙 想 会

宝塚黙想の家

◆日帰り黙想会

日時 11/6(木)・11/28(金) 10:00～15:30

指導 染野治雄神父(11/6) 山内十束神父(11/28)

参加費 ￥3,500

◆カトリック教会のカテキズム

日時 第1・3(水)10:00～12:00

指導 染野治雄神父

参加費 ￥1,000

◆祈りを深めるための聖書の基本

日時 第1・3(水)10:00～12:00

指導 山内十束神父

参加費 ￥1,000

◆新約聖書の世界への旅

日時 第1(月)19:00～

指導 山内十束神父

問 宝塚黙想の家

☎0797-84-3111

講 座 ・ 研 修 会

アネモネの会◆高橋聡神父カテキズム黙想会

日時 11/24(月・祝) 14:00～16:00

場所 サクラ ファミリア

問 高橋聡神父

☎090-6329-5709

大阪北地区秋の養成コース◆私たちのシノドス～シノドス最終文書を受けて～

講師 ヌノ・リマ神父

日時 11/29(土)10:00～13:00

場所 大阪梅田教会

主催 大阪北地区宣教評議会 養成チーム

申込 北地区小教区は各所属教会養成チーム担当者まで。地区外の方は養成チーム担当 梅崎神父まで。締め切り11/23(日)

問 クラレチアンレジデンス 梅崎神父 ☎072-840-2938

講座◆小さくされた人々のための福音

日時 第3(金)10:00

場所 神戸学生青年センター

参加費 ￥1,000

主催 神戸国際支縁機構

問 岩村 ☎070-5045-7127

集 い

WWME JAPAN 50周年◆感謝の集いin関西(マリッジエンカウンター)

日時 11/22(土)13:00～17:00

場所 カトリック女子御受難修道会(宝塚売布)

内容 感謝ミサ(前田万葉枢機卿司式)・分かち合い・茶話会

問 平尾 ☎078-991-5220

大阪JOC◆働き方や生き方について現状から共に考える15～35歳までの若者の集い

日時 第2(土)14:00～16:00

場所 大阪YCWセンター(またはZoom)

問 レネ神父・水元

☎072-232-8063

✉osakaycw@gmail.com

HPhttp://www.ycw.jp/

要約筆記グループ“エフファタ!”練習会◆教区ミサに要約筆記(文字表示)をつけるボランティア

日時 第2(水)10:00～12:00

場所 教区本部事務局 1階会議室

問 障がい者委員会

✉dis@ostk.catholic.jp

精神・発達症(障害)者自助グループ◆オリーブの集い

守秘義務と分かち合い

いつ来てもウェルカム

当日キャンセルOK

日時 第3(日)14:00～16:00

場所 姫里集会所

参加費 無料(12月のクリスマス会だけ実費)

申込 吉川まで

問 ☎☎078-583-2525

✉yassan.yoshikawa@nifty.com

点訳ネット「レジナ」◆勉強会

対象 パソコン点訳に関心のある方、視覚障がい者の情報共有に関心のある方

日時・場所 奇数月 第2(火)13:30～15:00 姫里集会所

偶数月 第2(水)13:30～15:30 北須磨教会

申込 笠松まで

問 ☎090-5661-4324

☎072-722-0271

✉kasamatsu-yukisan@iris.eonet.ne.jp

聴覚障がい者ボランティア会◆聖書の手話表現の学び・教区活動の手話通訳者派遣

対象 手話に興味をお持ちの方

※手話講習会ではありません

日時 第1・3・5(水) 10:00～14:00

場所 姫里集会所

問 障がい者委員会

✉dis@ostk.catholic.jp

マザー・テレサ共労者の集い◆大阪梅田教会

日時 第1(土)14:00

問 高塚 ☎06-6921-0693

◆加古川教会

日時 第3(火)13:00～14:30

問 森田 ☎079-426-5704

ひとりで悩まないで
～私たちに聴かせてください～

カトリック大阪高松大司教区
ハラスメント相談窓口

※委員会はハラスメント全般を視野に入れることになりました。そのため、名称変更します。

電話番号:06-6941-9718

相談窓口受付時間
月・火・金曜日(祝日を除く)
午前10時～午後4時

あなたの悩みを親身になって受け止めます。
秘密は必ず守られます。

大阪のカトリック病院

ガラシア病院

特徴的な医療
ホスピス・糖尿病内科
リハビリ・神経内科
肝臓内科・循環器内科

医療法人ガラシア会

理事長 前田万葉 大司教
チャプレン 松本信愛 神父

〒562-8567
箕面市栗生間谷西 6-14-1
☎072-729-2345

医療法人ガラシア会

行事等日程					
11月					
1	土	諸聖人	16	日	貧しい人のための世界祈願日 聖書週間(～23日迄)
2	日	死者の日	17	月	日韓司教交流会(～20日迄)
3	月	11時 教区納骨者および死者 祈念ミサ(カテドラル)	23	日	王であるキリスト 世界青年の日
6	木	〔常任司教委員会〕	26	水	10時半 桜町墓参
9	日	ラテラノ教会の献堂	12月		
10	月	聖レオ1世教皇教会博士 レオ池長潤名誉大司教霊名	4	木	〔常任司教委員会〕
12	水	10時半 顧問会・責任役員会	7	日	宣教地召命促進の日 (献金)

♪おいでませ桜町♪

巡礼者が桜町教会を訪ねてくださっています。桜町から10分所定の教会を巡礼しました。お世話になりました。

桜町では指定教会として、記念スタンプと教会パンフレットを新調し、「ルーチエ」の手作り等身大パネルを用意しました。また、連絡をいただいた団体様は飲み物とお菓子でお接待しています。皆さん笑顔で帰って行かれるのを見ることができると嬉しく思います。

あと2カ月足らず、今日も聖堂でルーチエがお待ちしています。

桜町教会 長谷川 聖

【お詫び】

本紙10月号に記載誤りがありました。

10月号1面 教区納骨者および死者祈念ミサ

(誤)10時→(正)11時

お詫びし訂正いたします。

(広報委員会)

11月司教予定

「行事等日程」以外

・11/10 道頓堀慰霊ミサと仏教読経(†M)

・11/14 大阪刑務所 聖年ミサ(†M)

・11/16 玉造教会 堅信式(†M)

・11/17～20 日韓司教交流会(山口・広島)(†M)(†S)

・11/22 社会福音化部門の集いin高松(†S)

・11/23 桜町教会 70周年記念ミサ(†S)

・11/27～30 FABC第2回宣教大会マレーシア(†S)

・11/30 門真教会70周年ミサ(†M)

†M＝前田万葉枢機卿 †S＝酒井俊弘補佐司教

リスナーの方
募集中!

小さきテレジアの会

「大阪高松教区報」を音読し、データCDに録音して、大阪高松教区の視覚障害者の方々に送付しています。

データCDは、プレストーク・パソコン・MP3対応のCDラジカセで聞くことができます。

音読というのは、一般に認識されている朗読とは、すこし違います。

書かれている内容を正確に、あまり感情をこめすぎずに、ニュースを読むアナウンサーのイメージです。

問合せ 別教会小さきテレジアの会

☎ 0798-22-1649

Fax 0798-34-3585

担当: 音読(ディジー)山口